

第6回中学生のスポーツ・文化活動の地域展開検討会議要旨録

令和6年3月19日（火）

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 第5回要旨録の確認
修正意見なし
4. 報告事項
○モデル事業（卓球）の実施報告
 - ・資格を持った指導者がいないと地域クラブとして認めない方向か？
⇒地域クラブによって活動内容は様々。技術の向上を目的とするところもあれば一緒に楽しむことを目的とするところもある。それを一律の基準で縛ることは難しいと考えている。
5. 議事
 - (1) アンケートについて
 - (保護者)
 - ・心配事は、どこですか（送迎）、費用のことが多くみられるので、心配を減らす取り組みが必要。
 - ・何もしない子が多く出るのではないかということも心配なところ。
 - ・小学校の保護者の意見は、部活がなくなって早く家に帰ってくる状況は避けてほしいというのが多い。働き方のこともあって、早い時間に子どもを見ることができない。
 - ・平日は、移動のロスもあるので、極力中学校を中心に活動をしてほしい。土日は中学校の空き施設を使うなども考えてほしい。
 - (教員)
 - ・小学校の先生にもアンケートを取ったらどうか。
 - ・地域に任せきりではなく、教員も少しでも関わりを持ってもらえる形にしていくのが理想。
 - (児童)
 - ・習いごと文化が定着している。
 - ・バスケや卓球、ダンスなどリクエストが多い種目についてはできるだけ実現してあげたい。
 - ・中体連を中心に、一つの団体にしか所属できないという課題をどう解消していけるかが課題。
 - ・回答の多かった週3回の活動が実現できるのが理想。
 - (生徒)
 - ・中学校になったらクラブ活動に入るという文化の中で、80%の生徒が

部活動だけに所属しているという結果になっていると思う。地域展開が進むとこの結果も様子が変わってくる可能性がある。

- ・二つ以上の取り組みをしたい生徒については、活動の時間の設定や場所によっては、やりたくてもやれないという生徒ができてしまわないか心配。
- ・週11時間のガイドラインの中で、どれだけ時間設定をうまくして活動の環境を作ってあげるかが難しい。
- ・入退会を気軽にできる地域クラブがあることで、勝利至上主義ではなく、楽しむことを目的とした地域クラブを作っていくことも大事。

(地域クラブ)

- ・教職員で関われない方の理由が気になる。
- ⇒教員の年齢構成を見ると、30代40代（子育て世代）が非常に多い。夫婦で子どもを育てるという時代の流れもあり、朝練や部活自体に関わりにくい教員があるのは事実。働き方改革の中で、時間無制限で仕事に関わるという働き方が受け入れられにくくなっているし、強制はできない。8:05～16:45が勤務時間。朝練に関わるということは時間外の命令をすること。お金は出ない。
- ・アンケート結果はHPでぜひ公表したら良いのではないか。
- ・地域クラブのアンケートの回答が少なかった背景には、メンバーまで行き届いてないところも多くあり、潜在的にはもっと関係者がいると思う。
- ・指導のレベルは、高いレベルから楽しむレベルまでいくつかに分ける方が関わりやすい。
- ・文化活動の需要も多い。合唱もモデル事業に取り組みたい。
- ・活動場所について、統合中学校にどんな施設ができるのか、既存施設をどこまで使えるのかなどの情報も欲しい。
- ・スポーツクラブは、小学生の延長ならすぐに受け入れできる。募集の仕方、中学生の地域展開を意識した募集の仕方に変えていきたいと思う。

(全体)

- ・八千代少年野球の意見。部活の位置づけとは？
- ⇒いかに曖昧な制度に成り立っていたか。多くの教師の犠牲とその家族の犠牲。部活の良いところと悪いところを冷静に振り返らなければいけない。
- ・アンケートで関われないという人も、関われないのではなく判断できないということも多いと思う。これから具体的なことが分かってくれば、関わってもらえる余地もきっとあると思う。
- ・平日一度家に戻ってまた集まるということは、頻繁には難しいと思う。

放課後を中心にどんな活動が提供できるか。実際に地域の指導者が確保できない種目もある。これまでの部活のような一種目にとられるのではなく、いくつかの活動を組み合わせるとか、そこに関わるのは地域の人であったり、保護者であったり、学校であったりと色々考えられる。

- ・誰かに負担がかかる仕組みではなく、みんなができる範囲で関わる仕組みを作らないといけない。
- ・公務員は報酬をもらえるのか？
⇒役場はそこまでなっていない。教員は兼職兼業という制度がある。
⇒公務員の兼職兼業も進めるべき。本務に影響がないように、の議論が必要。週30時間ぐらいがMAXではないか。
- ・日本郵政が職員の指導者の取り組みを進めている。
- ・教職員アンケートは、数は少ないが全国的に見ても同じような状況だと思う。
- ・「中心に関わりたい」というのは、自分のチームを作りたいという意味が多く含まれている。みんなで関わってというのは、案外苦手。「自分のチーム」にこだわると弊害も多く見られる。複数の体制を作っていくことが大切。

(2) その他

○今後の検討事項

- ・期待するところを伸ばし、心配事がどんどん減っていくように取り組みたい。
- ・ガイドラインのような仕組みを作っていきたい。
- ・Q&Aも心配点を中心に、分かりやすいものを作って公開していきたい。

○委員の改選について

- ・各団体の事情はあると思うが、引き続きお世話になりたい。
- ・次回に向けて編成を検討する。

6. 次回日程

令和6年6月18日（火）19:00～21:00